

# 平成28年度岩船郡・村上市算数部活動報告

部長 児玉 泰裕

## 1 研究主題

算数科において、思考力・判断力・表現力を育成するためには、どのような課題や教材が有効であり、どのような授業展開が効果的なのか。

## 2 研究の概要

平成28年度

4月28日 第1回算数部会

8月19日 第2回算数部会 算数科授業研修会 講演「演題 算数の授業力向上への道標」(新潟大学教育学部附属新潟小学校 教頭 平山 誠 様)への参加

10月7日 代表部員会 第3回算数部会時の公開授業指導案検討

10月27日 第3回算数部会(村上小) 公開授業・授業研究協議会

## 3 研究の実際

(1) 8月19日算数科授業研修会(講演 平山 誠 様)

ア 授業の7割を決めるのが課題の善し悪しである。

「問い」を生む課題の要件

- ① 全体の一部だけを示す
- ② 多様な考えが出る課題を示す
- ③ 条件の不十分な課題を示す
- ④ 一方的な結果の生ずる状況を示す

イ 子どもの頭をアクティブにさせるポイントは、得意にしている子どもを不安定にさせること

ウ 知識や技能を学級のすべての子どもたちに主体的・協働的に獲得させるために

- ① 確かめたくなるような状況をつくるー問い
- ② 全員参加する状況をつくるー学び愛
- ③ 考える楽しさ・納得・達成感・感動を味わわせる。

上記の過程を踏まえ、子ども主体の授業を構成し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせていくことが大切。

(2) 村上小授業研修(公開授業 加藤 光教諭 3年小数)

ア 実生活における児童の経験と結びつくような課題(小数をより身近なものに)

イ 問いをもたせる工夫(必要な情報を視覚化することで場面把握・状況把握をどの子にも確実に行わせる。)

ウ 考えを交流する場の設定(交流スペースの設定と活用)

## 4 成果と課題

### ○ 成果

今回、加藤教諭は、実生活と結びつけて必要な情報を視覚化させながら今まで習得した知識を活用させるような課題を仕組んだ。その学びの過程で思考力、判断力、表現力を育成しようと試みた。その結果、子どもたちは、じっくり課題と正対しながら自己内対話を繰り返し、多くの子どもたちが自分なりの考え方で自力解決することができた。子どもたちの姿から「やってみよう」という学習意欲が十分に見られた。「不思議だ」「解いてみたい」といった学習意欲を喚起する課題を用意すれば、子どもたちは、問いをもち、自力解決しようとする気持ちが高まっていく。また、交流スペースを設定し、意図的に考えを交流する場を設定することで、互いの考えを深化させることができ、子ども主体の授業を展開することができるということが分かった。

### ○ 課題

今後、「思考力・判断力・表現力を育成するためにどのような授業展開が有効か」という主題に対し、どのような授業展開を有効と考えるのか、が重要となる。そのために来年度は、次の3つを重視して研修を進めていく。

ア 本時(または本単元)で育てたい思考力・判断力・表現力を明らかにする。

イ 育てたい思考力を育成するため(または思考力が働いていると判断するため)に、子どもからどのような考え方(言葉)が出されればよいのかを明確にする。

ウ その上で、思考力を育成する(思考力が働いている)考え方を出させるための展開、発問、指示を検討、検証する。